

に、日本におきますミューテーションの大多数はグリシンからアスパラギン酸に変わっておるんでございますが、オランダのボスが発表したものでは、アスパラギン酸だけではございませんで、バリンやシステイン、またオーストリアの方ではアスパラギン酸もありますが、バリンとアルギニンに分散しています。日本ではアスパラギン酸に変異したものが多いということでございまして、ことポイントミューテーションに関する限り多少、地域的な差があるのではないかという事が考えられた次第でございます。少し時間が超過いたしまして申しわけございません。本日は、本庄先生の追悼記念講演会が開かれるにあたりお招きを受け、まことに有難うございました。戸部教授はじめ教室の方々に厚く御礼申し上げる次第であります。

司会 どうもありがとうございました。ちょっとご挨拶を申し上げたいと思います。土屋教授には多くの症例について、統計的なものでご講演をいただきました。さすがに長崎だという風に思っております。先生は、今夕からドイツの方にご出発されると聞きましたけれども、どうかお体を大切にひとつお願いいたします。

## 閉 会 の 挨 拶

京都大学外科学教室 戸 部 隆 吉

本日は、大変お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございました。本庄一夫先生のご遺影を忍びまして、先生から直接ご指導をうけられました、鈴木敏教授、小澤和恵教授、水本龍二教授、宮崎逸夫教授、中瀬明教授、土屋涼一教授の大変格調の高いお話をうかがいまして、先生のいつも手術に対して前向きでありました本庄一夫先生のお姿を、改めて偲ばれた先生方が多いと存じます。土屋先生のお話にありましたように、現在、日本の外科医ほど積極的に癌の手術に取り組んでいる外科医は、世界中におりません。そして又、消化器癌に関しては現在、根治切除のみが治癒を期待できる唯一の方法でございますので、この事は、大変すばらしい事であると思います。そして、改めて40年昔の大変厳しい時代に、前向きに根治切除に取り組まれました先生のご業績を偲ぶものでございます。本日は心から本庄一夫先生のご冥福をお祈り申し上げ、又、先生方の今後のご発展を祈りまして、本日の追悼記念講演会を閉じさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。